



2009年国際女性デー

ゆるすな! 雇用とくらしの破壊 たちあがろう! 未来のために いかそう! 日本国憲法

3月8日国際女性デー中央集会在、九段会館で開かれた。参加は大森分会2名、北斗分会1、東部江東一般2名、都本部伊波、本部角田部長が参加しました。全体の参加者は900人。記念講演は新藤風さんという32歳の映画監督で「新藤兼人」監督の孫です。風さんは「映画監督として、女として、生きる」という内容の講演でした。新藤兼人の書生として、97歳の祖父を介助しながら共に生活をし、2本の映画を作っている。「ラブジュース」という同性愛と異性愛を描いた作品、「転がれ、たま子」はひきこもりの映画だという。自分自身も失踪したり、ひきこもりになった経験を持つ。「これからはちゃんと生きて生きて」と宣言するために講演依頼を引き受けたと話していた。

アフガニスタンからの報告はすさまじいものがあった。日本国際ボランティアセンターの長谷部さんは、ひとつは女性の問題、ふたつ目は戦争がどのように行われているのか。タリバン時代には女性の教育はやっていないので、25歳以上でも字がひとりも読めない。しかし、2001年以降は読める人が増えたこと、しかし、10代で結婚し子供を10人くらい産むが、5人にひとりが5歳の誕生日を迎えられない程医療は悪化している。健康診断も皆無に等しいという。現在は医療・教育中心の支援活動を続けている。やはり9・11のように武力による解決は何も生み出せない、武装しない人々に寄り添うことで9条の精神を持つ日本人だからこそできるものがあると改めて思ったと言う。

ミニコンサートは上野公園でライブをやっている5人組のマイノリティーオーケストラ、口調や振る舞いが今どきの女性でにぎやかでした。交流のひろばの後、参加者はデモ行進へと出発した。

来賓の江尻さんは「この集会上に男性は何人かしかいない、男女平等や平和の問題、暴力の廃絶は男性も一緒に考えるべき、今後は男性も参加させる必要があるのではないか」と訴えていた。



感想文

国際女性デーに参加して
大森分会 三枝睦子



今の政府は、国民が一番大切にしたい、守って欲しい憲法を踏みにじって壊しているのだと実感した。年越し派遣村は、壊れた憲法25条、27条が恐ろしい姿を現したのだと思う。考えてみれば、若者達の大量の失業、反失業者は、憲法9条を改悪したら即軍隊へとまた、社会保障制度の後退につぐ後退は、膨大な軍事費のためにとの術策か? 憲法9条を変えた瞬間に戦争ができる国になっていたというような……。くわばら、くわばら。

でも、国際女性デーは「そんな思い通りにはさせないぞ!」という集まりだったと思う。映画監督の新藤風さんの「笑顔の力」の話、マイノリティーオーケストラのはじける様なパワー、オープニングコーラスの中にいた小さな女の子のものすごい頑張り、世の女性達は、おおらかに、粘り強く、破壊する者達と闘いぬくだろうと感じた集会でした。もちろん私もその仲間に……。

2009年
第55回

日本母親大会 IN京都

7月25日土 全体会

7月26日日 分科会